

出土した遺物

この遺跡からは、集落跡のものとしてたくさんの弥生土器や石器・鉄器などが、山城跡のものとして陶磁器類や銭貨などが出土しました。弥生土器は、在地の土器（赤くて厚いもの）だけでなく、山陰系の土器（山陰地方の土器と似た形の土器、白くて薄いもの）が多くありました。また、コシキ形土器と呼ばれる珍しい土器が多く出土し、また、コシキ形土器の他にも、壺^{つぼ}や高杯^{たかつき}などがたくさん出土しています。鉄製品は、鉄斧やヤリガンナといった工具と、武器である鉄鏃^{てつぞく}が出土しました。



色々な形をしたコシキ形土器



住居内の炉の上から立った状態で出土したコシキ形土器



広島の在地の土器（甕・鉢）



山陰系の土器（低脚杯・鼓形器台）



サビに覆われた鉄斧

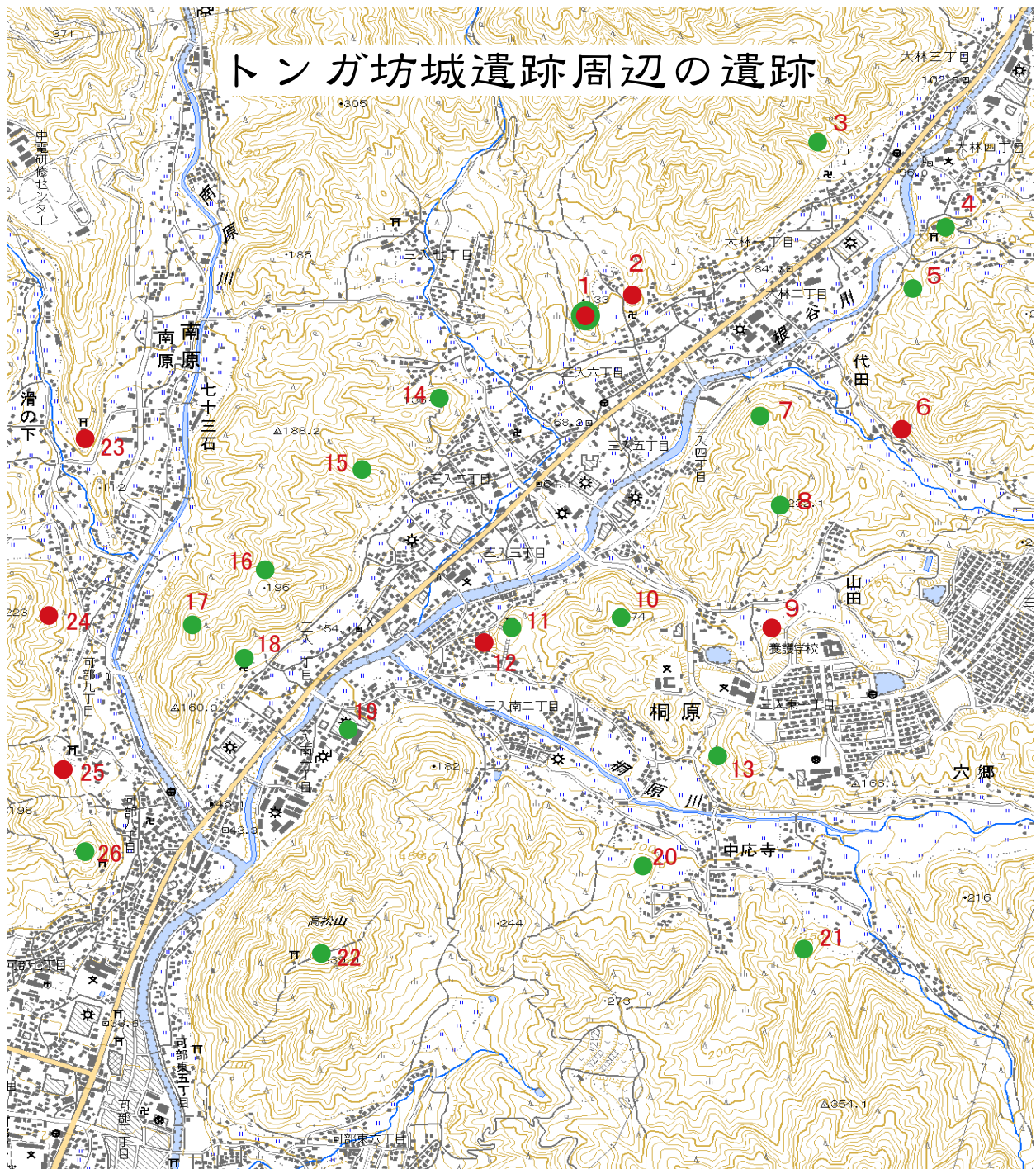


中世に中国から輸入された銅銭
「開元通寶」(上)「元豊通寶」(下)

発掘調査でわかったこと

- 弥生時代後期から古墳時代初頭の時期（約 1700 ～ 1800 年前）に、丘陵上に集落が営まれていました。
- 市内の遺跡で最も多い 6 個のコシキ形土器が出ました。また、山陰系の土器が多く出ることから、山陰地方の影響が考えられます。
- 尾根先は土壌墓・石棺墓・古墳などの墓域として利用されました。
- その後、中世（約 500 ～ 700 年前）に山城が造られました。
- この丘陵は、弥生時代には集落をつくるため、中世には城を築くためにそれまでの地形を変えてしまう大造成工事が行われました。この調査が終了した後、この丘は 3 度目の大造成工事によりバイパス道路が造られることになっています。





●—山城跡 ●—弥生時代・古墳時代などの遺跡 S=1/70000

1. トンガ坊城遺跡 2. 坊主山古墳 3. 火打岩城跡 4. 伊勢ヶ坪城跡 5. 友近城跡
 6. 高谷古墳 7. 二遍山城跡 8. 王子城跡 9. 山田古墳群 10. 雨乞城跡 11. 新宮城跡
 12. 丸子山墳墓群 13. 山田城跡 14. 門田城跡 15. 山根城跡 16. 宇祢能城跡
 17. 観音寺山城跡 18. 菩提所観音寺跡 19. 土居屋敷跡 20. 新城山城跡 21. 天上山城跡
 22. 高松山城跡 23. 南原遺跡 24. 九品寺北古墳群 25. 九品寺南古墳群 26. 申宮城跡

トンガ坊城遺跡発掘調査に関するお問い合わせ

財団法人 広島市文化財団 文化科学部 文化財課

〒732-0052 広島市東区光町二丁目 15 番 36 号 TEL(082)568-6511 FAX(082)568-6513

ホームページ <http://www.mogurin.or.jp> メール hbb@mogurin.or.jp

トンガ坊城遺跡

(広島市安佐北区可部町字上町屋地内)

トンガ坊城遺跡、「トンガ坊」その名前の由来は不明です。いつからか地元では、根の谷川とその周辺を見渡せる見晴らしの良いこの丘を「トンガ坊」と呼んでいたそうです。

今回の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期にかけての集落跡や古墳などの墓、中世の山城跡などを確認することができました。根の谷川流域のみならず広島の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができました。



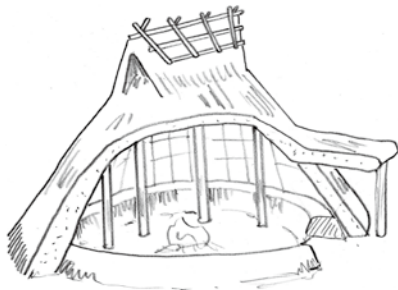
上空から見たトンガ坊城遺跡（西から撮影）

たてあなじゅうきょあと 竪穴住居跡

遺跡からは建て替えなどを含めて約 20 軒の竪穴住居跡を確認しました。円形や多角形など色々な形のものが見られます。丘陵上を造成して、集落を営み続けたために、住居跡が重なっています。

竪穴住居って何？

地面を掘りくぼめて、柱を数本建てて、その上に屋根をかけた家のことです。



竪穴住居の復元図

どころ 土坑

食料などを蓄えておくための穴
ちよぞうけつ
(貯蔵穴) と考えられます。

土坑
深さ約 2 m の深いものもあります



テラス状遺構

斜面を削って造られた平坦面をテラス状遺構と呼んでいます。作業場や通路として使われたと考えられています。



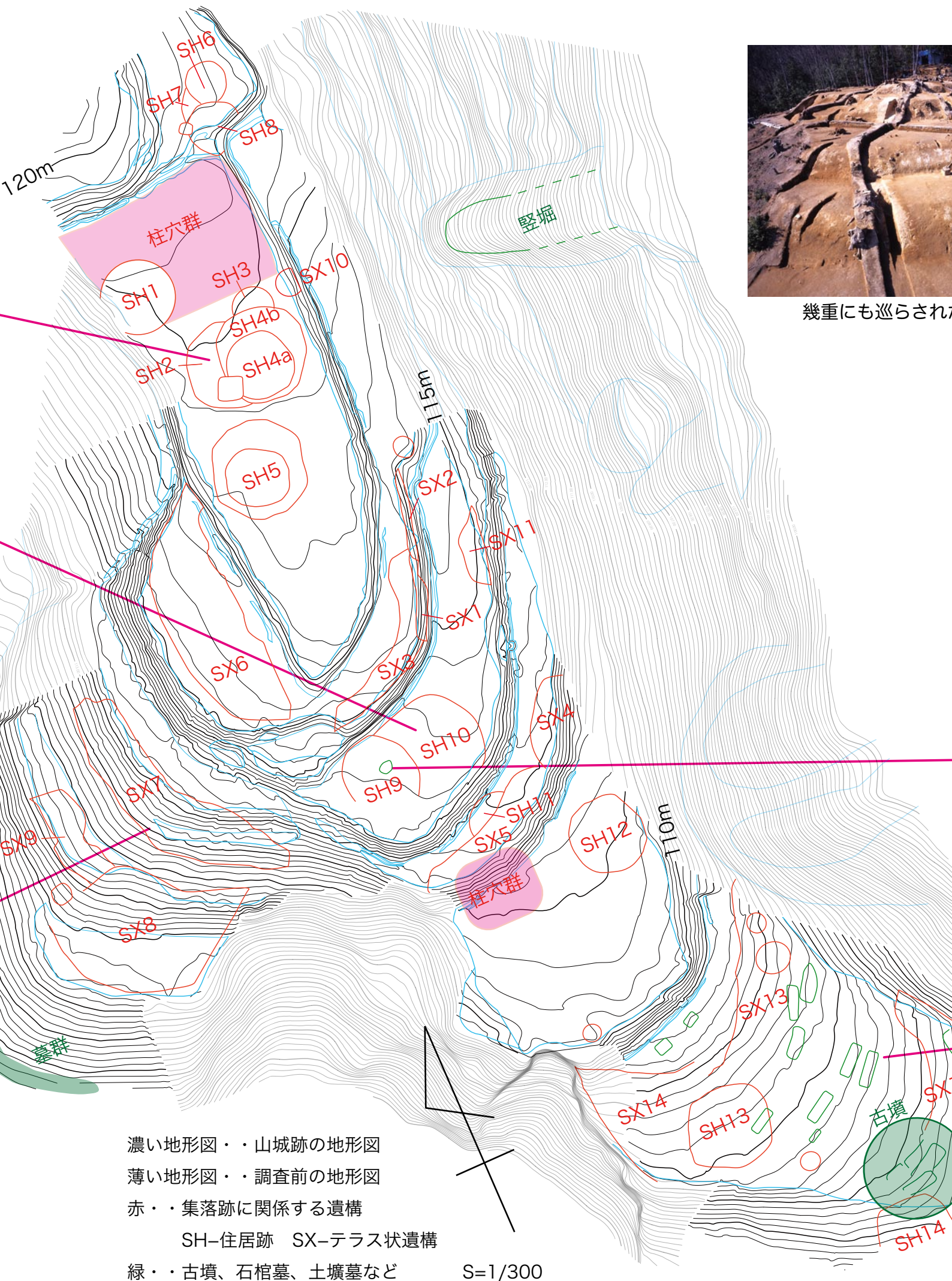
SX 7
白線で囲まれた部分が平坦に加工されています



重なりあった竪穴住居跡 (SH 2・4)



火事にあった住居跡 (SH10)
燃えて炭になった材木が出土しました



幾重にも巡らされ

トンガ坊城跡

トンガ坊城跡は中世の山城跡で、郭（くるわ 曲輪）や切岸、斜面で^{きりぎし} 豎堀^{たてぼり}などを確認しました。郭とは、地面を削ったり、土を盛ったりして造成した平坦面のことです。

切岸とは、敵が下から攻めてきた時に、登りにくくするために地面を急な角度に削ったり、土を盛って造った急斜面のことです。トンガ坊城では、切岸の高さが高い所で約2.5mもありました。

豎堀とは、主に斜面での横への移動を制限するために設けられた大きな溝です。

た郭と切岸

トンガ坊城跡からこの付近を治めていた熊谷氏^{くまがやし}に係する伊勢ヶ坪城跡^{いせがつぽじょう}・高松山城跡^{たかまつやまじょう}が良く見え、大林～三入～可部の町並みが一望できます。

遺跡から可部方面を望む



高松山城跡

人 骨 出 土 ！



かがみ込んだ人骨

^{どこうぼ} 土壇墓の一つから、正座をしてかがみ込んだ状態で人骨が出土しました。このような状態で埋葬される事例が少なく、とても珍しい埋葬方法です。人骨の保存状態は良く、30～40才の女性で、身長約150cm、鼻が低くて少し出っ歯な人だそうです。

また、お墓の中にはこの女性が身につけていた無色と緑色のガラス小玉^{こだま}（ビーズ）が計147個が入っていました。

今後、詳しく分析することで、埋葬された時期や人物像が明らかにできることでしょう。

墓群

調査区の南端（尾根先）は、^{はこしきせっかんぼ} 箱式石棺墓や ^{どこうぼ} 土壇墓、古墳などのお墓がたくさん造られました。



調査区南端の土壇墓群